

ダイバーシティ事業 国際共同研究PI養成 事前調査プログラム
報告書

報告日：2019年3月25日

派遣者所属名	神戸大学大学院人間発達環境学研究科 人間発達専攻 表現系講座
派遣者氏名	大田美佐子
<p>3月19日昼過ぎにニューオリンズに到着、ハーバード大学音楽学部キャロル・オジャ教授とともに、Society for American Music (以後、SAMと略す)の45回記念大会の会場となるMONTELEONEホテルに移動。23日(土)の午後の共同研究の発表について打ち合わせ、その展開についても議論する。</p> <p>3月20日 夕方にSAMのレセプション。オジャ教授からSAMを運営する様々な関係者に紹介していただく。夕食時に、ハーバード大学Katie Callam氏、神戸大学研究員の木本麻希子氏が合流。共同研究について打ち合わせ。</p> <p>3月21日は一日中SAMの研究発表を聴き、夜はハーバード大学の夕食会に招待して頂き、ハーバード大学音楽学部の関係者を中心に研究に関する一般的な意見交換も行った。</p> <p>3月22日はSAMのセッション参加。午後に共同研究発表のリハーサル。アトランタ・ジョージア大学でテーマの一部を共有する研究者を紹介される。</p> <p>3月23日の午後は研究発表「Marian Anderson's 1953 Concert Tour of Japan: Post-Occupation Racial Encounter through Performance」。第二のプロジェクトに向けて、SAMで紹介された研究者と打ち合わせ。</p> <p>3月24日の午前に、オジャ教授とあらためて今後の展開について相談。(American Musicの秋号に掲載予定の論文の邦訳について、今後の日本での展開について)</p> <p>3月25日早朝にニューオリンズ発、帰国。</p> <p>以上のように、オジャ教授から、多くの音楽学の研究者仲間をご紹介頂いた。特に女性研究者のネットワークは想像をはるかに超えた豊かさがあり、今後の共同研究でシンポジウムなどをする場合の人選についてもある程度話し合った。</p>	

海外派遣終了後の研究の進捗状況 (2020年2月現在)

2019年4月、Carol J. Oja 教授 (ハーバード大学)、占領期の日本とアメリカの音楽文化の交流について、トランスナショナルな手法で調査研究する。来年度中には論文を刊行予定。

今後も、オジャ教授との共同研究を核にして、若手研究者とも共同しつつ、国際的な展も視野に入れて進めていくことにしている。

海外派遣終了後の研究の進捗状況 (2021年3月現在)

2017年度よりハーバード大学音楽学部のキャロル・オジャ教授と日米音楽文化交流について共同研究を開始し、2018年2月、6月と2度にわたりハーバード大学で共同調査。2019年2月に国際共同研究PI養成プログラムで、ニューオリンズの国際学会に派遣して頂きさらに共同研究の地盤を作ることができた。2019年10月にはAmerican Musicで論文「Marian Anderson's 1953 Concert Tour of Japan: A Transnational History」(American Music 37(3) 266 - 329 2019年10月) が掲載され、2020年にはナッシュビルのVanderbilt大学でのグローバルプログラムの一環で、パネリストとして招聘された。

2020年3月にはオージャ教授とニューヨークで再びプロジェクトの話し合いを予定していたが、パンデミックで中止になった。その間、共著論文がミズーリ大学の音楽学部のサマーリーディングディスカッションの課題テキストに選ばれた。Black Lives Matter運動を契機に、Inclusion, Diversity, Equityがテーマになっているので、共著論文の重要性が確認された。オンラインでは、共著論文第二弾のプロジェクト本の準備を進めることができ、2021年夏にミシガン大学からオージャ教授編集の「Sounding Together」という論文集を刊行予定。これは収録された論文すべてが二人一組のチームで書かれ、方法論から資料に至るまで様々な対話を基盤にして書かれた論文で、オージャ教授との共同プロジェクトのなかで発想、構想された。

2021年度はコロナ・パンデミックの状況下で何が可能か、模索しつつ、2022年度の国際音楽学会に参加するための準備を進めている。

海外派遣終了後の研究の進捗状況(2022年3月現在)

2019年3月ニューオリンズの Society for American Music 第45回学術年次大会への海外派遣終了後、2021年には共同研究者であるハーバード大学 Carol J. Oja 教授との共著論文「US Concert Music and Cultural Reorientation during the Occupation of Japan」が掲載されている論文集「Sounding Together」がミシガン大学出版より刊行された。

2021年は、これまで Oja 教授と共にハーバード大学と神戸大学の若手研究者を巻き込んで続けてきた共同研究「Marian Anderson's 1953 Concert Tour of Japan: A Transnational History」が Society for American Music の年間最優秀論文賞である Irving Lowens Article Award を受賞するなど、最大の評価を受けた年でもあった。一方、2022年8月に開催予定の国際音楽学会(IMS)アテネ大会にも、日本とアメリカの音楽文化の交流に関するテーマでエントリーし、採択されていたものの、コロナ状況の悪化を踏まえ、また主催者がオンラインでの開催が困難との見通しに言及したことから、IMS アテネ大会での口頭発表のエントリーを取り下げることになってしまった。

しかしながら、2017年のJSPSのプログラムによるハーバード大の Oja 教授の招聘から展開してきた国際共同研究は、2022年4月に神戸大学の 大田美佐子がテーマ「多文化共生時代の舞台芸術文化のダイナミクス — 亡命・占領・共生の視点から」によって科学研究費(基盤 C)を獲得したことにより、新たな段階を迎えたと考えている。2024年度に計画されている国際シンポジウム「音楽劇研究とトランスナショナル・ヒストリー」の開催に向けて、その実現にはさらに外部資金の獲得が必要である。2022年度はこのシンポジウムの実現を目標に、さらに Oja 教授との連携を深めてトランスナショナルな音楽文化史の共同研究を進めていきたい。